



栈敷席 祭りの見どころ「かつちゃ」を特別観覧席でお楽しみいただけます。

チケットをお買い求めの方は、下記取扱窓口までお問い合わせください。

◎取扱窓口：FKKエアサービス株式会社 TEL.0766-22-2212



神幸行列 5月15日 9時30分～15時

伏木神社の春季例大祭の御輿の巡行に、子供達の母衣武者行列や、花傘、太鼓が随伴します。



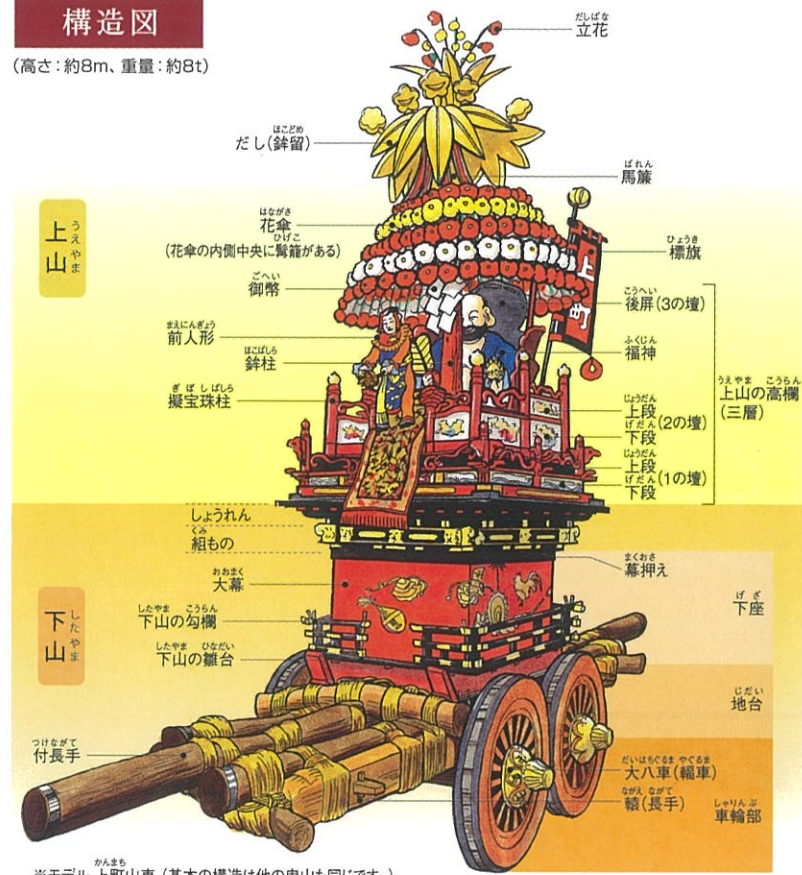
- 祭の前夜5月14日「宵山ライトアップ」は山倉前で行われます。(19時～21時)
- 山車は午前中に各山車町内を奉曳し、伏木神社に礼拝後、10時30分頃本町広場に集合します。夕方、山倉前で花山車から提灯山車へ、模様替えをします。
- 十七軒廻船問屋の小判・餅まきは、12時頃伏木駅前で行われます。
- 19時30分頃のかつちゃは、6本の山車が並んで水見伏木信用金庫前まで移動した後、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かつちゃ終了後は奉曳順路に戻ります。
- 22時30分頃のかつちゃは奉曳順路途中で、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かつちゃ終了後は奉曳順路に戻り、伏木神社礼拝をもって祭礼行事は全て終了となります。

高岡市観光交流課

〒933-8601 富山県高岡市広小路7-50 TEL.0766-20-1301 FAX.0766-20-1496
高岡市観光ポータルサイト「たかおか道しるべ」<https://www.takaoka.or.jp>
「けんか山ホームページ」www.kenkayama.jp

構造図

(高さ：約8m、重量：約8t)



※モデル 上町山車 (基本の構造は他の曳山も同じです。)



<高岡駅より> JR：氷見線→伏木駅 (約15分) 下車すぐ
バス：伏木經由氷見行伏木循環 (東廻り・西廻り)→伏木支所前臨時バス停下車
5月15日は、高岡駅と伏木駅前をつなぐお祭りシャトルバス (乗車無料) を運行します。詳しくは、交通規制図 (各種HP掲載) をご覧ください。

<高岡ICより> 国道8号線 富山方面へ「下田」交差点左折→約20分

<高岡北ICより> 国道32号線 伏木方面へ→約15分

「かつちゃ」の動画配信中!



(公社)高岡市観光協会 TEL.0766-20-1547
高岡駅観光案内所 TEL.0766-23-6645
伏木観光推進センター TEL.0766-44-1199
新高岡駅観光交流センター TEL.0766-30-2626
※2019年3月時点の情報です。(25/00)



花山車



ときめき、わき立つ、港町「伏木」の伝統と心。

伏木は、恵まれた地の利から、天平時代には越中国府が置かれ、万葉の歌人でもあった大伴家持が国守として、赴任。また近世からは越中有数の港町として栄えてきました。

伏木曳山祭は、その港町の海上安全と海岸を鎮護する伏木神社の春の祭礼として行われます。始まりは江戸後期の1814年(文化11年)。海岸にあった神社が波で崩れ、現在地へご神体をお渡りする時のお乗り物として曳山が造られたと伝えられています。

神座に七福神がまつられた壮麗な曳山は、まさに港町伏木の歴史文化のシンボルであり、かぎらない誇りです。

昼は美しい花傘を広げた花山車として、夜には約360個もの提灯で彩られた提灯山車として、潮風をまとい行く粋と意気がわき立つような鮮やかさ、勇壮さは人々をどよめきの渦でつつまます。



伏木神社

昼は春の爽やかな潮風と共に

花山車

〈はなやま〉



夜は激しく燃える炎のごとく

提灯山車

〈ちょうちんやま〉



「かっチャ」に燃える、伏木男児の心意気。

先端に付長手という約5mの樫の大木を、大砲のごとく取り付けた曳山の重さは約8トン。宵闇が迫ると、花山車から提灯山車へと姿を変え、期待と興奮の渦に町全体が包まれます。

やがて腹の底に共鳴するように山鹿流出陣太鼓が鳴り響くと、地鳴りとともに動き、駆ける山車と山車が全力でぶつかり合います。これが祭りの最高潮「かっチャ」です。

「かっチャ」は、伏木の男たちが心意気のすべてを込め、その心意気が輝き燃える一大イベントです。

宵山ライトアップ
5月14日 19時～21時

山倉前にて、花山車のライトアップとともに、威勢のいい囃子で祭の前夜を盛り上げます。

町・山車	なかまち 「中町」 ひょうたん山車	みなまち 「湊町」 ちょうちょう山車	いっさまち 「石坂町」 字山車	ほろまち 「寶路町」 せんまい山車	ほんまち 「本町」 がנגら山車	かんまち 「上町」 ささ山車	じゅうしけんちょう 「十七軒町」 ほら貝山車
はなやま 花山車							
だし(鉾留) ふくじん 福神 まえにん 前人形 こうへい 後屏(鏡板)	せんなるひょうたん しそんまんたい 干成瓢箪(子孫萬代) ふくじん 福祿寿(天明元年1781年作) からこ 唐子(操り人形) せせないつつ 郝大通(中国の仙人)	こちう さいほうぶくどく 胡蝶(財宝福徳) いしやもんてん 毘沙門天(明治34年1901年作) からこ 唐子(操り人形) こうせきこう ちゅうけい 黄石公と張良(中国の故事)	かいはし じゆ 楷書の壽の字(不老長寿) だいこくてん 大黒天(万延元年1860年作) からこ 唐子(操り人形) きんじきどう 菊慈童(中国の故事)	かさ せんまいばんどう ちう きちうさい 重ね千枚分銅(富貴蓄財) えびす 恵比須(制作年不詳) からこ 唐子(操り人形) せいおつほ 西王母(中国の故事)	こいれい ほうらいしりょうふく 鉦鈴(宝来招福) べんざいてん 弁財天(天明元年1781年作) わ こさんはんそう 和子三番叟(操り人形) かん ぶてい 漢の武帝(中国の故事)	さきりんどう えんじゆせい 笹龍胆(延寿長生) ほいでい 布袋(天明元年1781年作) からこ 唐子(操り人形) こうせきこう ちゅうけい 黄石公と張良(中国の故事)	ほらがい みらいせいごう 法螺貝(未来永劫) じゅうじゆん 寿老人(平成16年復元) からこ 唐子(平成20年復元) つるかめ 鶴亀(中国の故事)
特徴	下山の構造が伊達柱になっているなど、行装が他の山とは違っています。高欄の欄干に止まらせて小鳥はこの山の独特のデザインで、下山の彫物の均整のとれた美しさと共に見どころのひとつです。	からまき 唐木の後屏や褐色で統一した上山の彫刻など、全体に男性的な偉容を誇っています。また擬宝珠柱や横木類の朱と金地との鮮やかなコントラストも見事です。	「菊慈童」に因んだ大輪菊の彫りものが見事です。高欄の上段が一連の透かし彫りふうの丸彫朱欄になっており、下山の小壁部分がハメ込み式の「箱欄間」になっています。	後屏の主座に「標山」の西王母を立て、上山の彫りものは西王母と山神の恵比須(波瀟文と「高砂」の翳姥)ゆかりのモチーフによって、整合的に装われています。	全体に金碧の効果が発出しており、特に竹林の緑色との対照は鮮やかです。また白漆塗の透かし欄間は独自のもので、出来映えも見事です。	文人画の「蓬萊群仙図」を偲ばせる多数の仙人彫刻と、その構図の巧みなことで、躍動的な造形と合わせて伏木曳山の白眉と言えます。	十七軒町の曳山は、明治の大火で焼失しましたが、伏木町とけんか山が永遠に発展することを願い復元いたしました。高欄には、「未来永劫」を表す鶴のほか、親子獅子や四神獣の彫刻が施されています。